

特集 スタートアップ連携によるオープンイノベーション

MEイノベーションファンドを通じたスタートアップ出資

2022年に、CVC1号ファンドであるMEイノベーションファンドを設立しました。“「技術」で世界に変革を起こす”をミッションに、国内外の優れたスタートアップに投資、協業しています。協業を通じ、技術、ノウハウ、ビジネスモデル等を三菱電機グループに取り込み、新事業創出や事業モデルの変革を目指します。投資領域を、サステナビリティとデジタル、ディープテック分野に絞り、事業シナジーによる戦略リターンを狙います。

運用総額	50 億円
運営体制	グローバル・ブレイン株式会社 / 三菱電機の二人組合 *1
運用期間	10 年間



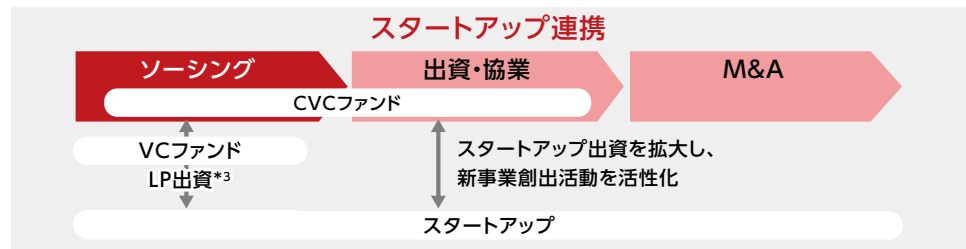
■ 投資実績(2024年10月時点)



VC*2ファンドへの出資を150億円規模に拡大

有望なスタートアップへの出資、協業を加速することを目的とし、VCファンドへの出資を150億円規模に拡大、国内外のスタートアップの情報を幅広く収集するソーシング強化を図ります。

同時に、投資ノウハウ獲得、財務リターンを狙います。中長期的には、事業拡大や新事業参入を視野に入れ、M&Aを積極的に実行します。



*1 事業会社とVCの2社でCVCファンドを共同設立する形態で、事業会社が出資を行いVCが運営を行う

*2 ベンチャーキャピタル

*3 スタートアップへ直接出資するのではなく、出資資金を募ってVCからスタートアップへ出資すること

スタートアップ連携の事例

2023年に出資をしたシンガポール発のスタートアップ「Hydroleap Pte. Ltd.」(以下Hydroleap)との協業の実現可能性を検証するため、三菱電機グループのタイの製造拠点である「サイアム・コンプレッサー・インダストリー」と「三菱エレベーターアジア」で実証実験を行っています。



Hydroleapの持つ水処理技術「電解凝集法(HL-EC:Electrocoagulation)」と「電解酸化法(HL-EO:Electrooxidation)」の効果検証を実施、技術の有効性について議論をしています。今後、三菱電機とHydroleapは、東南アジアの水問題を解決、限られた資源を有効活用できるように協業を進めていきます。

Voice

水問題の解決に向けてソリューションを提供

水は私たちの生活に欠かせない貴重な資源ですが、その供給には限りがあります。近年、東南アジアをはじめとする世界各地で工業用途における水の消費が増加し続けており、水問題は一層深刻さを増しています。Hydroleapは、この水問題の解決に向けて水処理ソリューションを提供しています。具体例の一つとして、工業排水の浄化にHL-ECを、データセンター向けの冷却水循環にHL-EOを適用しています。



Hydroleap Pte. Ltd.
CEO
Mohammad Sherafatmand 氏

従来手法と比べ、化学薬品を使わずに済むため、サステナビリティに配慮した解決策となります。これまで課題となっていた消費電力を抑えることに成功しており、社会実装を可能にしました。ただ、Hydroleapが単独で成し遂げるには難しく、他社との共創が欠かせません。三菱電機と協業をすることで技術開発の加速、販路拡大をできれば、私たちの事業をより大きくすることができます。